

## 第 25 回 100 年史誌部会 議事録

日時: 2008 年 4 月 30 日(水) 16 時 00 分～17 時 00 分

場所: 管理棟 2 階 第一応接室

出席者: 横山部会長、松田、栗野、大町、奥山、小山、高畑、神戸、小池、山崎、片山、赤平各委員、  
鈴木孝制氏、小室編集局員、斎藤編集補助員

欠席者: 金子委員

### 【配布資料】

【資料 25-1】 100 周年記念誌 (Journal) {2008 年 4 月 30 日}

【資料 25-2】 米沢の方言

【資料 25-3】 開校式に関する書類 {100 年史誌編集局 08.4.30}

### I) 連絡事項

1. 来月の「今月の話題」は小池委員が担当する旨、小室編集局員から依頼があった。
2. 斎藤編集補助員から百年史編集局ホームページのメンバー専用ページのパスワードを変更した旨、ならびに変更されたパスワードは学内便で各委員に通知した旨、報告があった。

### II) 協議事項

#### 1. 100 周年記念誌

(1) 松田 J 班長から各所属学科の・ユニット キーワードの選定について 資料 25-1(1)に基づき説明があり、内容について意見交換、検討を行なった。

1. 全体で 100 語でなく、150 語程度に増えても良しとした。
2. 分類方法について、大分類で分ける方針が了承された。具体的な分類は今後更に検討を進めることとなった。
3. 今回は店名などの固有名詞を除いたが、卒業生の記憶に残る店もキーワードには相応しいとの意見が出され、固有名詞等もキーワードとして取り上げることは問題なしとなった。
4. 各系のキーワード・コンセプトの内容について、学科名など他の章節で詳述する内容は省いたとする意見がある一方、索引的に網羅すべく選定したとする意見があった。議論の結果、キーワード・コンセプトで詳述する内容が他の章節の内容と重複する場合はキーワード・コンセプトとして選定しないこととした。

(2) 百人の声の寄稿に関して

1. 栗野委員から「小論」という語はへりくだった言い方であり、依頼側の用法としては不適切な印象があるとの意見が出され、語源を確認するとともに、不適切である場合は適切な語に変えることとした。
2. 資料 9 ページの「百人の声」見本組で 560 字であり、最初の提案の 400 字は少ない印象を受ける。560 字で 1 ページに 3 編程の掲載で良しとした。
3. 依頼文の差出人は部会長と学部長の連名とする。
4. 依頼方法として、歴史や学科定員などを勘案して、まず従来の各学科(系)から 10 人ずつほど推薦いただく。即ち高分子系、化学系、機械系で 30 名、電気電子・情報と応用生命で 20 名、生体センシングは 10 名、工業会で 10 名、部局から 5 名程度とし、共通講座と残りを J 班で選定する。寄稿依頼は OB や名誉教授の他、地元の方も可とする。J 班と山崎委員で各学科・専攻・部局から推薦された名簿から年齢構成などを勘案しながら検討・調整を行なう。

#### 2. 百年史

(1) 「今月の話題」紹介

- ① 片山委員の今月の話題「米沢の方言」について紹介があった

- (2) 年報のファイル作成について小室編集局員から報告があった。
- 文部省に出していた年次報告書、抄録を一冊のファイルにした。文部省報告は昭和 23 年まである。但し、昭和 12 年以後は文章が無く、統計表のみであるため、ファイルは昭和 11 年迄のものである。
- (3) [資料 25-3]に基づき、開校式に関する書類について小室編集局員から説明があった。
- I 部「開校式前記」、II 部「開校式の記」、III 部「開校式後記」から構成されている。
  - I 部「開校式前記」からは、創立事業が 7 か年の継続事業であったこと。実際の開校から遅れて開校した理由が記載されている。更に、他の大学、専門学校の開校式が行なわれていることが、開校式の日程に影響を与えたことが伺える。また「開校式協賛会」が組織されたこと、儀式としての「米沢諸子相撲」を行なったことなどが興味深い。
  - II 部「開校式の記」中に平田東助子爵が祝辞を述べている。平田子爵は米沢有為会のリーダーであり、祝辞中に米沢高等工業学校の設置に有為会の関与があった事を示唆する文言が残されている。米沢高等工業学校の設置に有為会の関与があったことを唯一示す貴重な文書である。

### III) 次回の会議について

- (1) 次回は 2008 年 5 月 28 日(水) 16:00 ~17:00 事務棟 2 階 第一応接室 にて